

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390200253		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホーム ほのか・八代		
所在地	熊本県八代市本町四丁目2-28		
自己評価作成日	平成30年 1月 5日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/43/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanistruue&amp;JizyosyoCd=4390200253-00&amp;PrefCd=43&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/43/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanistruue&amp;JizyosyoCd=4390200253-00&amp;PrefCd=43&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成30年 1月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設から8年経ち、看取りや退去され新しく入居された方も皆さんと落ち着いて生活されています。老いても体が不自由になられても住み慣れた我が家のように暮らして頂ける様に、一人ひとりのペースに合わせ、その方の好み、これまでの生活習慣を把握し、その方に合ったケアを行います。入浴は毎日入りたい方は毎日、お湯は、一人ひとり入れ替え、ゆっくり入っていただいています。食事は安心・安全なグリーンコープの食材を利用し、時にはほのかの畑で採れた野菜を使用します。おやつ作りなどは利用者の方と一緒にすることもあります。誕生会はその方の誕生日に合わせて手作りのケーキでお祝いをします。利用者の要望を尋ねドライブや外食など楽しんで頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グリーンコープ生協と地域福祉を担う部門を母体とする社会福祉法人グリーンコープは、H25年9月より、九州・中部地方9県で組織運営されている施設の一つです。社会福祉法人化された事により、九州規模での事例検討等の研修機会が増え、ケアの質の向上に繋がりました。また、職員アンケートや現場職員との直接面接を行い、職員処遇に活かされています。本町アーケード延長の道路と交差する脇道の角に立地した施設で、アーケード側の玄関から通所、その奥に事務所や調理場、さらにその奥にグループホームと地域交流スペースが棟続きで立地しており、ウッドデッキのある中庭スペースも設けられています。駐車場には畑もあり、街中ではありませんが、静かな場所になっています。母体が生協なので食材は安心、安全なものが提供され、ボランティアとの交流が数多くある施設です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの基本理念は、開所時にスタッフ皆で話し合っ決めて。利用者の対応で迷った時など理念に照らして振り返っている。社会福祉法人グリーンコープの理念「共に生きる」を、月ごとに毎朝の申し送りの際に唱和している。	朝の申し送り時間に法人理念と施設独自の理念を1ヶ月毎に交代で唱和している。ケアで迷った際には、理念に立ち返り判断するようにしている。新人に対しての理念教育は担当が行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。地域の神社の祭りの際には、クラブ内のワーカー達と手作り品やリサイクル品や食バザーなど行った。	町内会に入会しており総会には職員が参加している。祭りの際には施設がバザーなどを出して参加している。地域住民の舞踏や体操などのボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンを通じて、認知症への理解と、予防のための体操など実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂き、参考にしている。会議と併せて4月は地域包括支援センターの紹介で、通所リハのPT・STを講師に迎え介護予防教室を開催した。11月には、地域の祭りの際、バザーを行い、利用者も参加した。	家族から職員の研修報告の資料提供や研修会案内の周知要望が出たため、その後は資料として提供している。また、参加した地元の出席者から消火訓練に近所の人に参加できるような取り組みを、との要望が出たので、掲示板へ掲載予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協働関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	運営会議には市担当者にも出席頂き、研修会情報を得た際には参加するようにしている。不明点等は迅速に問合せのできる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職場内研修を行った。家族からの要望でベッド柵をしていたが、ベッドの下に布団を敷きベッド柵を外し、ご家族に説明し承諾して頂いた。身体拘束について学習を繰り返し、正しく理解しケアの実践が出来るようにしている。以前は屋間玄関の施錠をしていたが、現在は、玄関を施錠していないので、見守りには、十分気を付けている。	市職員と地域包括支援センターの助言を受けながら虐待防止に努めている。玄関施錠を無くしたり職員が心のゆとりを持てるようストレスチェックを実行し、職員の負担が大きくなった際には、別の職員が交代して声掛けを行うなどの取り組みがなされている。	今の取り組みの継続に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において4月に虐待が発覚したため、八代市に報告し、改善計画書を提出した。ご家族に説明し手紙を持参の上お詫びに伺った。マニュアルを作成し、職場内研修を行った。自己チェックシート等を活用し研修を重ね虐待防止に、努めている。運営推進会議でも報告し毎回、議題に上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度の利用者が入居されていたので、成年後見人と連絡・相談していた。現在は無いが制度について研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議・施設ケアマネ会議でも報告・相談し運営に反映されている。家族会ではアンケートを取り、要望については職員に周知した。意見箱も設置している。	面会に来た家族から、「玄関から風が入るので座席場所を変えて欲しい」「いつも同じ洋服を着ているようだ」等の要望があった際には、それを記録にとり、家族に説明できるような工夫対応がなされている。	利用者の持ち物、衣服などの管理を徹底する工夫がさらに家族に伝わるような取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見や要望などノートに職員が、記入している。職場会議で職員と話し合い、了承された事は反映されている。	法人本部で職員処遇改善プロジェクトが取り組まれており、年1回、職員アンケートを本部が回収。また、職員への個人面談を実施し、処遇改善に取り組んでいる。昨年は夜勤手当が上がり、今年4月からは資格手当も上がる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表者は月1~2回の本部での会議で管理者からの報告となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では、年間研修計画を立てて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告・研修を行い職員で共有している。介護福祉士修得に向け受験対策講座を本部にて開催。受験料・交通費の助成制度がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ加入し、研修会など参加し、情報交換を行っている。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話も併せて、これまでの生活習慣や馴染みの物を聞きだし、自宅に居るような雰囲気近づける様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の不安な事や要望などを聞き、家族の想いがケアに活かせるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯物干しや洗濯たたみ、テーブル拭き、調理の盛り付けなど家族の一員として、毎日行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接する様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にある。来訪された際は、ホームでの様子を伝えている。行事の案内もし、共に楽しく過ごしてもらっている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時に「ほのか便利」と併せて職員の手書きのお便り(近況報告)を配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院や、ご近所への散歩と近くの神社への参拝。ドライブなど	友人が遊びに来て話をされたり、入所前からかかっている主治医への受診や門徒寺への参拝等の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活を大切にしながら、利用者同士仲良く過ごせる様に努めている。男性が1名などで孤立しがちだが、皆さんとのゲームに誘ったり、誕生会の際は、一緒にテーブルで歌ったり、お祝いの言葉をお願いしたり、皆さんの輪に入れる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほのかで看取りをおこなった利用者の家族がクリニックを開業されているので、ほのかの利用者の症状について、現在も相談している。二年前に出身地へ転居され、転居先で死去された利用者家族が、県外から挨拶に来訪されたり、また看取りを行ったご家族より毎年チューリップの球根を寄贈されたりと交流がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、なにげなく話された言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している。言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	本人からの聞き取りが難しい場合には、前任のケアマネや通所、施設からの聞き取りを行っている。汁物を沢山希望される利用者、毎日の入浴希望の利用者がいれば、都度対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。	担当者をつけてケアを行っている。入居前の居住地を見に行ったり、来訪が少ない家族からは電話で要望を聞き取る等の工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々ニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い的確な病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療関係とも連携を図っている。	かかりつけ医への受診に心がけている。家族が受診に同席できない時や、気になる変化があった際には電話で報告をしている。看取り等の状況変化の際には家族と話し合いを行い、往診医への変更など提案している。	受診状況等の詳細の家族との共有への工夫に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職員は、相談しながら個々の利用者が適切な受診や介護を受けられる様に支援している。介護リーダーは、看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院した際には、入院の手続きも職員が行い、入院中も頻りに病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応についての指針を作成し、家族会にて説明している。ほのかでの看取りを希望される利用者には訪問診療に変更したりと医療と連携して利用者を最期まで支えている。	過去に、看取りを5名実施している。看取り指針の計画書に添い昨年4月から更に2名の看取りを行った。職員の中に看護師を2名配置し、必要時には医師や訪問看護と連携して看取りを行い、臨終には家族も同席できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での訓練は、まだまだ不十分なので、今後は定期的に訓練をするように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに協力を呼び掛けている。年2回消防避難訓練を実施し、1回は、消防隊員立ち合いの下、運営推進会議メンバーも参加して開催している。	平屋でスプリンクラーを設置している。民間の警備会社との契約をしており緊急時の対応が可能となっている。年2回の消防訓練には警備会社や消防署、運営推進会議のメンバー、家族も参加している。	夜間の訓練も一度取り組んでみられることに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には、敬語を使うように心がけている。居室に入る際は、利用者に声をかけて、入室している。	トイレや居室には鍵があり、プライバシーの保護に配慮されている。グループホーム連絡協議会で開催されたプライバシー保護の研修を再度、施設内でも年に1回実施している。声掛けには小声で目線の高さで話しかける取り組みがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普通の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉かけに心がけている。利用者の自己選択、自己決定を大切にできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、希望に添える様に、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分で出来る方には自由に使える環境を整えている。訪問美容の利用を支援している。外出の際は、ご自分で服を選んで頂ける様に声掛けしながら選んでもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気にならめ食べたいものがあれば、メニューに追加したり工夫している。利用者の能力に応じて、食事の盛り付けや、テーブル拭きは毎回、おやつ作りなどは時々利用者と一緒にやっている。	利用者が盛り付けや、食材の下ごしらえをしたり週3、4日は手創りでおやつを作っている。年数回は利用者の希望で回転すし屋に出向くなどの工夫がなされている。	職員による検食時間をもう少し早め、食中毒の予防や味付けや調理方法への更なる有効活用に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすりおろし・ミキサー食など工夫している。食が進まない方には、ゼリーやプリン、アイス、好みのパンやジュースなどを差し上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けをしている。日中は布パンツのみや布パンツにパット着用、入居時は、紙パンツだったが布パンツに改善できた。	排泄の個人記録をつけ、ケア会議でも議題にあげることで、紙パンツ着用で入居した利用者が布パンツ着用へ移行できるようになる等、個人の自立が支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、毎日牛乳を飲んで頂いている。便秘ぎみのかたにはバナナや乳製品、乳酸飲料など食事による便秘予防やお腹のマッサージや体操なども行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、柚子や菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。便失禁のあった場合は入浴を促している。	入浴の順番や回数にも、利用者の希望が取り入れられ個浴で毎日入浴する等利用者の希望も叶えられている。最低でも、週3回の入浴が実施されている。今は夜間入浴の希望は無い。重度化した利用者にはリフトも使用され安全な入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調節、布団干しなど行っている。シーツもこまめに洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・目的・用法・容量また病状の変化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できる様になっている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は利用者名・日付など声に出して確認して投薬し、飲み込まれるまで見守るようにしている。飲み込みの悪い方には、服薬ゼリーなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を利用者と一緒に行ったり、色々な行事などの時に挨拶をして頂いている。利用者の希望を聞いて、歌・トランプ・風船/パレーなど好きな事をして頂き、生き活きと暮らせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	街の中心地に位置するので、商店街の催しなど参加している。紅葉・花見などドライブ・外食など企画し実施した。	外食や近くの商店街での催し物への参加、季節に合わせ桜や紫陽花見学等、様々な取り組みを行っている。買い物好きな利用者には同行していたが、最近では要望が無いため、その機会が減っている。	外出時の有事への対応なども踏まえ、男性職員の活用の検討にも期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かっている。病院受診の時持参している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話せるようにしている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね、複数のご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁には季節感のある飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。加湿器や床暖房など使用して居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	加湿器や床暖房、トイレの暖房など、室温に配慮され利用者の座る場所などにも工夫している。施設内は全体的に木目調で落ち着いた雰囲気である。	中庭の有効活用で季節感が楽しめるような更なる工夫に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや一人掛け椅子などその日の気分に応じて思い思いに過ごせる様に居場所の工夫をしている。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居る雰囲気大切に、馴染みの家具や身の回り品など置くようにしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	本を読みたいとの希望で机を持参されたり、化粧用の机や鏡台の持ち込みをされている。家族の写真等を飾る等の工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー廊下には手すりを設置。各居室の小窓にはその方に合ったイラストを貼っている。夜間トイレに迷わないようにトイレの電気は付けている。		